

夏目漱石「坊ちゃん」の現在・過去・未来

社会福祉学科長 三浦 俊二

夏目漱石といえば、「吾輩は猫である」「坊ちゃん」「心」「草枕」「倫敦塔」「道草」など多くの作品がある。そのなかでも、私は「坊ちゃん」に惹かれ、その気持ちは今も続いている。「坊ちゃん」は漱石が「吾輩は猫である」を執筆しているときに、「ホトトギス」に書いた小説のようである。

「坊ちゃん」の内容は、小説だけでなく映画やテレビドラマとしても制作され、万民の知るところであると思いたい。学生諸君は知っているだろうか。薄い小説なので肩もこらずに読めるので、一読をお薦めしたい。

私が最初の小説を手にして「坊ちゃん」を読んだのは中学3年か高校1年の頃であったと思う。そこで注目したいのは登場人物である。坊ちゃんからあだ名を付けられた人物をあげると、赤シャツはきざでいつも赤いシャツを着ている教頭先生、うらなりはいつも蒼白い顔をした英語の古賀先生、山嵐は坊主頭で坊ちゃんと同じ数学の堀田先生、野だいは赤シャツの腰巾着のような美術の吉川先生、そしてマドンナは遠山のお嬢さんで、うらなりの元婚約者、横恋慕しているのは赤シャツといった設定である。

10代のときの感想としては、単純で坊ちゃんは爽快な青年、赤シャツはいやらしい奴、うらなりは自分を主張できない弱虫、これではマドンナに逃げられて当然、山嵐は正義感ぶった猪突猛進型、

野だいは赤シャツべったりのごますり人間と理解したように覚えている。マドンナはどのような美人かなと想像の世界の人で、自分の周りにいるあこがれの人を創造していたのではないだろうか。

それが、30代の前半で2度目の「坊ちゃん」に出会うのである。そのときにもった感想は、坊ちゃんには青臭く感じ、赤シャツには人のもつエゴと欲を感じ、とても人間的にみえ、うらなりには人間の生活のなかでもつ弱さを感じ、山嵐には単純さ、野だいはどこにでもいそうな人にみえたと思えた。また、マドンナには人間のもつ打算を感じあまりよいイメージをもつことはできなかった。

10代と30代、どうして同じ小説を読んでこんなにも印象が違ったのだろうかと考えたが、小説の内容が変わるわけがなく、自分が変わったことに気づかされたことを覚えている。そのとき思ったのは、還暦になった頃もう一度「坊ちゃん」を読んでみようと思ったことである。さて、どうなるのでしょうか。

先日、横手に行く機会があり、石坂洋次郎記念館に立ち寄る時間があり、一回りし、「あいつと私」という時代設定は、昭和30年代中頃、60年安保のときの大学生が主人公の小説を見つけた。これも「坊ちゃん」と同じで今の大学生と当時の大学生の会話にみる質の違いに唖然とさせられた。このことをゼミで話したところ、石坂洋次郎を知る者が皆無という寂しさを味わって終わったが、若いときから小説すら読まず、自分の成長や変化に気がつくことのできない寂しさは味わいたくないものである。



夏目漱石著；伊藤整、荒正人編
『漱石文学全集』第2巻
集英社、1970.8

所在：918.68 || ナツ
学生用開架コーナー

司書のフロムナード

美味し～い物を得るために

忘年会の季節柄か、何か美味し～い物を食べたい気持ちになっている。だからといって、さほどお腹が空いているわけでもなく、何処に行っても何を食べれば良いのかもわからない。ただ美味し～い物を食べたいのである。そこで、いざ美味し～い物を食べ(呑み)に行ったとする。本来であれば、良く噛み、味わい、そして、鱈腹食べるところなのだが、二口位で欲求は満たされ、その後は酒と談義に溺れ家路に就く、といった具合なのだ。

更にお粗末なのは、2・3日後には、その美味さは薄らぎ、数ヶ月も過ぎれば、店の名前も、食べた物の味付けも何もかも忘れてしまうのである。ただ美味しかったなあ～という記憶だけが残るのである。(同伴者に言われれば、さすがに思い出すが?)この様なことが、毎年繰り返される。せめて、本当に美味しいと感じた時くらいは、何処の何という店で、何という物なのか、最低限の情報をメモしておくべきなのであろう。

話は変わるが、本(雑誌)に対しても同じ様なことがいえる。この本は面白いと思いつつ読む。この文章は今調べていることの参考になると思って読む。この時点では記憶に留まっているのだが、数日・数ヶ月もすれば、内容のもとより、何の本(雑誌)のどの辺に書かれてあったのかすら忘れてしまう。そうすると、また始めから読み直したり、調べ直したりしなければならなくなる。本(雑誌)のタイトル・著者・出版社(社)・出版年・巻号・頁等をメモしていれば、直ぐに役立てられるのに...

つまり、感覚の記憶だけでは限界がある。自分にとって、これだ!と思った時には、ところ構わずマメにメモをとれば(情報を得れば)、美味し～い物(本・雑誌)を得られるのかもしれない。

(雑誌担当：後藤 貴志)



図書館利用シリーズ 2

図書館 Q&A

Q: こういう本があるんですが、図書館に置いてもらえませんか?

A: はい。リクエスト、受付けていますよ。図書購入申込書に学番号・名前・連絡先・書名を記入してください。備考の欄には、資料が利用できるようになったときに掲示板でお知らせする際の“リクエストネーム”を記入してください。

Q: 必ず置いてもらえますか? また、どのくらいで借りられるようになりますか?

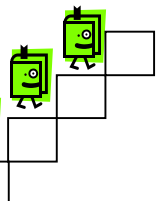
A: リクエストされた資料は図書館員による選定委員会にかけられ、本学図書館で必要であれば、購入することになります。1ヶ月ほどで利用可能になります。もちろん、申込者が最初に利用できますよ。

Q: 持ち込んだビデオやDVDを図書館でみることはできますか?

A: できません。図書館でみることが出来るのは、図書館にあるAV資料だけです。

Q: 図書館には、どんなDVDがありますか?

A: 学術資料のほかに、映画のDVDもあります。貸出は出来ませんが、いろいろ揃っていますので、授業の合間でも楽しんでみてはいかがでしょうか?



スタッフ紹介 part.2

宮本です。主に図書館にない資料を他館から借りたり、論文の複写を入手したりして皆様にお届け中です。

図書館は試験勉強で集中出来るだけでなく、1人の時間をゆっくり過ごす事が出来る所です。皆さんも沢山足を運んでください。

社会教育学科3年 鈴木

今年で図書館バイトが2年目になりました。おかげで、他の図書館でも簡単に本が探せるようになりました！

福祉心理学科3年 五十嵐

無愛想な雰囲気を出してはすみません。いい雰囲気を出せるよう頑張りますので、これからもよろしくをお願いします。

社会教育学科3年 青木

庄司です。基本的には文献複写を担当していますが、庶務全般行っています。たまにカウンターにもいます。

バイトを始めて早くも半年が経ちました。まだまだ挙動不審ですが、温かく見守ってください。

社会教育学科3年 櫻井(菜)

バイトを始めて、1年半ほどになりました。最近、目の調子が悪く、気づくと細目で相手の顔をにらんでいることが…気を付けます。

社会教育学科4年 櫻井(理)

図書館でのアルバイトで、今までよりも本に触れる機会も増え、また、学生の皆さんと接する場所でもあり、良い経験になっています。個性豊かな職員さんたちとも仲良くして頂きたいです(^ ^)

社会教育学科3年 金森

図書館バイトを始めて2年が経とうとしています。図書館には一風変わった本もあって日々驚かされます。

社会教育学科4年 山縣

どーもどーも、石橋と申します。総務・受入等を担当している厚顔(事実)の美青年(事実無根)です。



Books are for use. - The first law of "The Five Laws of Library Science" (S.R.Ranganathan)

図書館日記

-カウンターでの1コマ-

~最近、カウンターで想うこと~

4月から半年経過した現在でも、「この本はどこにありますか?」という質問が今の時期にしては多い。もちろん、検索の仕方や書架の配置など知る由もなし、といった様子。

カウンター側から見ると、色々な学生が見受けられる。ある意味、窓口での対応には、学生の行動が反映してくることもある。

まず一番目は、学生証をカードリーダーに通す際、個人の性格が素直に現われる。恐る恐る通す人もいれば、学生証が磨り減るくらいの力で通す人もいる。

二番目には、カウンターで本を貸出す際、貸出処理が済んだ次の瞬間、自分のものだからよこせ、といわんばかりに引っ張る人も中にはいる。その上、短気な人は画面処理の終了時点で、既にバックに詰め方をしている。正反対に「ありがとうございます」といねいに礼を言い、ゆっくり受け取る人には(また来てくださいね!)口には出さないが、語り掛けている。

どんなに道具が進歩しようとも、人間が存在する限り、感情面のコントロールがいかに重要かを窓口を立てて再認識する今日この頃である。

図書館からのお知らせ

11月から図書館のパソコンの利用方法が変わりました。

2階・3階のパソコンを利用する際は、3階のカウンターでの利用が必要になります。

2階のパソコン机も新しくなり、2階・3階の座席数も増えたので、居心地の良い場所を見つけるのも良いのではないのでしょうか。

絵本コーナーが左壁際へ移動しました。

これまでの書架よりも低く、ゆったりしているので利用しやすくなりました。

新学期設置にむけて

来年度の新学期設置に伴い、現在新学期関係の資料を別置きしております。OPAC検索をして、「貸出中」になっていないのに、書架に見当たらない場合は、壁際の書架も見てください。貸出もできますので、わからないときは3階カウンターで気軽に聞いてください。

図書館ホームページから(学内専用パソコン)様々なデータベースを利用できるようになりました。一度、ホームページをご覧ください。

中には、河北や朝日などの新聞記事データベース等、パスワードが必要なものもありますので、その時は3階中央カウンターへ。

冬期休業中の長期貸出が始まります。

貸出手続は、12月5日(月)からです。返却期限日は、平成18年1月16日(月)になります。ベストセラーの貸出も合わせて行います。

冬期休館は、平成17年12月28日(水)~平成18年1月6日(金)

編集後記

今回は、お忙しい中、社会福祉学科長の三浦先生にも御協力いただきました。編集委員一同、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

八巻・稲妻・熊谷・石川

東北福祉大学図書館「としよかんぼう」 2 2005年12月

編集・発行 東北福祉大学図書館 〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1

TEL:022-717-3319 FAX:022-717-3309

E-mail: lib@tfu-mail.tfu.ac.jp

http://www.tfu.ac.jp/libr/ful.html